

16. 太平洋戦争 (1941 年)

日中戦争が長期化し、日本では物資が不足してきました。日本は資源を確保するために、フランスやオランダが東南アジアに持っている植民地を奪って、勢力を南に拡大しようと考えました。南に軍を進めると北が手薄になるので、それに備えて 1941 年にソ連との間で日ソ中立条約を結びました。

日本は「欧米の植民地となっているアジア諸国を開放し、アジアの諸民族で栄えよう」という意味の「大東亜共栄圏」というスローガンをたて、フランス領インドシナを占領しました。これに対して中国を支援していたアメリカは日本への石油の輸出を禁止し、ABCD 包囲陣をつくりました。(アメリカ・イギリス・中国・オランダによる日本への経済封鎖)

それでも日本政府はアメリカとの戦争を回避しようと交渉しますが、日米交渉は決裂し、対米開戦の道へ進むこととなります。

1941 年 12 月 8 日、日本陸軍はイギリス領マレー半島へ侵攻し、海軍はハワイの真珠湾のアメリカ軍基地を攻撃し、太平洋戦争が始まりました。

開戦後半年くらいは日本軍は勝ち進み、東南アジアや南太平洋を勢力下におきましたが、1942 年 6 月のミッドウェー海戦で大敗すると、連合軍の本気の反撃が始まり、日本が占領した南方の各地で日本軍は全滅させられます。

1945 年 2 月、アメリカ・イギリス・ソ連のトップはヤルタ会談を行い、戦後のドイツの処分と、ソ連が対日参戦することなどを決めました。

1945 年 5 月にドイツが降伏し、ヨーロッパの戦争は終わります。

日本では、1944 年になると空襲が激しくなり、1945 年 3 月には東京大空襲、沖縄戦が行われ、多くの命が犠牲となりました。

同年 7 月に連合国は日本に無条件降伏を求めるポツダム宣言を発表するも、日本政府ははっきりとした返答をしない態度をとります。

アメリカ軍は 8 月になると、6 日に広島、9 日に長崎に原子爆弾を投下、そしてこの間にソ連もヤルタ会談での取り決めにもとづき、日ソ中立条約を破って参戦。8 月 14 日、日本はポツダム宣言を受け入れ、翌 15 日に昭和天皇はラジオ放送で国民に敗戦を発表し、第二次世界大戦、太平洋戦争は終結しました。

太平洋戦争へ、行くよ最後の一人まで

1941 年